

京都市の象徴的な生物種に関する指標の検討

1 考え方

本市は様々な自然環境の特徴や地域性があり、象徴的な生物種を1つに絞ることが馴染まないことから、以下条件を満たす種を象徴的な生物種として選定する。

- (1) 本市域の生物多様性の状態を象徴的に表す生物種であること
 - ・本市の複数の取組に関連する
- (2) 市民、事業者が身近に感じることができ、馴染みがある生物種であること
 - ・市内に広く分布している
 - ・市民、事業者の活動による影響や効果がイメージしやすい
- (3) 継続的に状態を把握できる種であること
 - ・活動団体等において継続的にモニタリングしている

2 指標種の候補

指標種	1 (1)	1 (2)	1 (3)
チマキザサ 【森】	・プラン本冊、資料編に掲載 ・プロジェクト認定制度の取組対象種 ・京都生きもの 100 選に掲載 ・推進プロジェクトで取組	・花脊・京北地域に分布 ・祇園祭の厄除け粽や京料理・京菓子などに利用 ・森林環境を保全することで、生育数や利用数が増加	・チマキザサの保全に取り組む団体がモニタリングを実施
モリアオガエル 【森・街】	・プラン本冊、資料編に掲載 ・京都生きもの 100 選に掲載 ・推進プロジェクトで取組	・社寺の庭園、森林に分布 ・水辺や森林環境を保全することで、生息数が増加	・生物調査に取り組む団体がモニタリングを実施 ・寺社仏閣で卵塊の観察会を実施
ツバメ 【里・街・川】	・プラン本冊、資料編に掲載 ・京都生きもの 100 選に掲載 ・京の生きもの生息調査の対象 ・推進プロジェクトで取組	・市内全域の河川敷、商店街、住宅地、農地等に分布	・野鳥の保護団体がモニタリングを実施 ・京の生きもの生息調査により把握
ゲンジボタル 【里・川】	・プラン本冊、資料編に掲載 ・京都生きもの 100 選に掲載 ・推進プロジェクトで取組	・鴨川・高瀬川・哲学の道・有栖川・上賀茂神社・琵琶湖疏水等に分布 ・水辺環境を保全することで、生息数が増加	・水辺環境の保全団体がホタルの観察会を実施
アユ 【川】	・プラン本冊、資料編に掲載 ・京都生きもの 100 選に掲載 ・推進プロジェクトで取組	・鴨川・桂川・宇治川等に分布 ・レジャーや食材として利用 ・河川環境を保全することで、生息数や利用数が増加	・水辺環境の保全団体がモニタリングを実施
カヤネズミ 【里・川】	・プラン本冊、資料編に掲載 ・京都生きもの 100 選に掲載 ・推進プロジェクトで取組	・宇治川・桂川の河川敷等に分布 ・草地環境を保全することで、生息数が増加	・カヤネズミの保全団体がモニタリングを実施